

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

鬨の声上げて芽吹くや大銀杏

川崎 多恵子

水音に傾いてゐる初桜

瀬戸内 紀子

春爛漫息子棟上餅を撒く

宮路 生大子

大陽俳句会

置き去りのハンカチーフや花埃

岩重 みどり

夜桜の香を秘め空の蒼みけり

大川 満

花の昼泣き寝入りせし子の重き

福村 よう子

白梅の散り足し庭の白さかな

逆瀬川 節子

短歌

末吉短歌会

春空を統ぶるが如く揚げ雲雀

かろき矜持の空にとけゆく

長倉 佳津子

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

子とろことろの鬼に追はれし子狸が
凍てたる朝の舗路に転びゐる

森岡 ちどり

お雛様インフルエンザにかかりしや
押入れ深く眠りておはす

宝蔵 弘二

大陽短歌会

数かずの吾の短歌を読み返し
過ぎにし日々を想い出しおり

安藤 フヂ子

改ざんを繕う弁を聞き流し
郷土力士のホシを案ずる

米澤 正敬

はつ夏の若葉の匂う茶畑を
さらさら渡るたそがれの風

渡辺 哲夫

財部短歌会

春半ばもんどり打って飛ぶ雀吾が
若き日のこと思い出づ

井上 澄子

もくもくと新燃岳の噴煙は
手足伸ばして落書き始める

児玉 次雄

いづくより辿り着きしか庭先に
子犬一匹うづくまりをり

杉村 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

可愛せ顔で 手がまし孫あ
悪戯放題

鈴木 一泉

笑るたなら 皺も多かどん
可愛か顔

古川 一幹

喜寿いなつ 顔全体全部
緩が来つ

浜田 一好

親し友達し 長振り嬉し
顔土産

森山 厚香

大陽薩摩狂句会

健診で 病が判つ
命拾れ

津留 群志

何ん言てん 婆ん見舞が
一番長げ病

小倉 りんりん

御馳走言が 我が家ん線いじや
大概な料理

新屋 涼子

味噌が無ち 女房が言でけつ
買け走つ

新名 武士